

# 琉球大学コアファシリティ構築支援シンポジウム

令和4年12月2日 琉球大学

山田 知沙

技術企画課

## 1 はじめに

山口大学では、令和3年度に総合技術部が設置され、常盤キャンパス、小串キャンパス(宇部市)及び吉田キャンパス(山口市)に点在する技術職員が一元集約化され、全学組織となった。総合技術部の設置は令和2年度に採択されたコアファシリティ構築支援プログラム(応募機関数34機関 内採択機関数5機関)の取組のひとつでもあり、学内の研究設備や機器共用の推進、マイスタートラックの制度設計や技術職員の人財育成の構築に取り組んでいる。令和3年度にコアファシリティ構築支援プログラム(応募機関数35機関 内採択機関数10機関)に採択された琉球大学と山口大学はその組織としての規模から組織的に連携・協力し、連絡会や研修プログラムの相互参加等を行っている。今回、令和4年12月に開催された琉球大学コアファシリティ構築事業プログラムシンポジウムに参加したので報告する。

## 2 プログラム

日時 令和4年12月2日(金)10時～12時15分, 16時～17時(意見交換会)

開催形式 ハイブリッド開催(対面:琉球大学50周年会館, オンライン:Zoom)

テーマ 「求められる技術職員像とは～育成・研修制度を考える～」

### 第1部

開会の挨拶 木暮 一啓 氏 (琉球大学理事・副学長/研究基盤統括センター センター長)

基調講演 江端 新吾 氏 (東京工業大学 戦略的経営オフィス 教授/TCカレッジ長)

### 第2部

パネルディスカッション 「技術職員の育成・研修について考える」

パネリスト 島貫 瑞樹 氏 (沖縄科学技術大学院大学 研究リソースシニアマネージャー)

長井 圭治 氏 (金沢大学 先端科学・社会共創推進機構 特任准教授兼URA)

岡 征子 氏

(北海道大学グローバルファシリティセンター 機器分析受託部門/設備リユース部門部門長)

渡邊 政典 氏 (山口大学 総合技術部 部長)

屋比久 裕盛 氏 (琉球大学 工学部技術部 技術長)

ファシリテーター 名嘉 秀和 氏 (琉球大学工学部技術部)

閉会の挨拶 平井 到 氏 (琉球大学医学部 教授/研究基盤統括センター 副センター長)

## 3 第1部 基調講演

江端氏の講演は何度か拝聴しているが、いつも心に残るキーワードがある。斬新な提案と着実に実行できる体制を整備するために必要なことであり、いつもメモを取るのを脳裏に焼き付いている。

- ・ 技術職員の子カラを信じること
- ・ リソースを最大限に活用する

- ・ 壁を壁でなくす(Evidence Based Management)
- ・ 多種多様な英知の集結
- ・ 仲間と心から楽しむための仕組み創り
- ・ マインドセットをかえる
- ・ 失敗を恐れるな

江端氏は、「地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ」に触れ、地域の中核となる特色のある大学の振興を構築するための課題と対応について、「新潮流を創造することこそが大学が果たす役割」であり、そのためには、単独の大学のみならず、大学の研究環境や研究基盤、マネジメント体制とマネジメント能力を技術職員のチカラを使って、“オールジャパンのネットワーク”で構築していくことが必要であることを強く語られた。各大学の第4期中期目標や中期計画にも目を通し、全国の大学のビジョンや方向性を知り、大学の研究力の強化や研究の質の向上などを考えていくことも提案され、「地域の人に夢を魅せ続けることが地域の役割である」という言葉で基調講演を締めくくられた。

#### 4 第2部 パネルディスカッション

パネルディスカッションのテーマは、「求められる技術職員像とは」であった。第2章のプログラムに記載したパネリストの方が、各々の大学での取り組み事例やそれぞれの見解を発表し、活発な議論がなされた。その中でも特に印象に残ったコメントを記録として残したいと思う。

技術を求める人の伴走者、技術を軸にして繋ぐ人材、自ら考えて働き生み出す、価値を最大化できる人材、視野を広げて内に閉じず、協働する人材が必要であり、提示されたニーズの意図をくみ取り、引き出せるかが求められるということだ。つまり、高度専門技術者には、ユーザーの求める要望に応える技術を提供することができ、そのためには、様々なステークホルダーと意思疎通を図ることが重要であるということだ。多種多様な強みや特色を兼ね備えた大学における技術職員が、学外でネットワークを組み、HUBの人材となり、多様な技術を兼ね備えた技術職員個人が実現したいことを明確にした上で、横に広げ、チームやグループなど組織レベルで取り組めるように繋げていくことが重要であることを学んだ。



図1. パネルディスカッションの様子

#### 5 国際教育課長との面談

日時 12月2日(金)14時30分～15時30分

面談者 琉球大学 金城 かおり 氏 (学生部 国際教育課長)

高江洲 伊知子 氏

(研究推進機構 研究企画室 コアファシリティ構築支援プログラム 副主任 URA)

山口大学 山田 知沙 (総合技術部 技術企画課 技術企画・環境保全グループ長)

教育プログラム実施に携わる技術職員としての知見を深め、他大学関係者との人脈形成を図るという目的で、琉球大学学生部国際教育課長と面談を行った。琉球大学は、2018年度に世界展開力強化事業「COIL 型教育を活用した米国等との大学間交流形成」として採択されており、ハワイ大学、グアム大学、パラオ地域短期大学やマイクロネシア連邦短期大学及びマーシャル諸島短期大学とのCOIL(Collaborative Online International Learning)を基盤とした、太平洋島嶼地域のSDGs達成に積極的に貢献するリーダーを育成している。山口大学では、第4期中期目標・中期計

画に「大学等間の相互連携により技術職員のスキルアップとキャリア形成に取り組む」と明記しており、大学等間の相互連携による高度専門技術者育成プログラムを共同開発すると記載している。山口大学と琉球大学はコアファシリティ構築支援プログラムにおいて、連携・協力する関係にあり、世界の大学の経営や技術職員の実態を調査したりするなど、技術職員の世界展開を見据えてマッチングできる分野がないか、まだ手探りの状況ではあるが、研修計画で技術職員向けの海外研修についても検討できないか、またどのような内容で連携できそうかを検討していきたい。

## 6 まとめ

琉球大学コアファシリティ構築支援シンポジウムに参加して得た知見について報告した。理想の技術職員像のために必要な育成や研修だけでなく、技術職員が自律的にスキルアップし、成長できる仕組みづくりが必要であり、そのためには執行部や教員の理解と協力が必要であると感じた。また、江端氏の基調講演にあったように、単独で取り組むのではなく、オールジャパンのネットワークとして、共用の仕組みを標準化、効率化し、良いものはみんなでシェアする姿勢が大切であることを学んだ。「イノベーションの創出には誰がリーダーになってもいい(誰でもなれる)」という言葉に胸に深く刻み、今後、技術職員の一員として組織マネジメントや研究力への貢献、取組みに寄与できるように努力したい。